

2017 年度 学校関係者評価委員会

日時	2017 年 7 月 5 日 (水) 13:30～15:30	場 所	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 ホテル実習室（8号館3階）	進 行	原田
	議 事		槍崎		
出席者	<一般> ・原田 正隆（千葉市民活動支援センター） ・船曳 勇一（株式会社千葉京成ホテル 京成ホテルミラマーレ） ・山口 晋司（千葉都市モノレール株式会社） ・小亀 さおり（千葉市経済農政局経済部観光プロモーション課）				
	<学校職員>*オブザーバー参加 ・瀧 潤一郎（校長） ・矢口 博士（副校長／事業本部長） ・足澤 永子（教務室長／事業本部長補佐）				
議題	1. 2016 年度学校運営報告 2. 2016 年度自己評価 配布資料：①2016 年度 5 校実績結果一覧 ②2016 年度自己点検・評価結果				
議事録	進行原田氏が委員会を開会した。 1. 2016 年度学校運営報告 学校：今委員会の内容については情報公開資料の一部として学校 HP に載せる予定であり、作成が完了し次第、委員の方に郵送し確認していただく予定としている。 学校職員より 2016 年度学校運営について説明を行った。 <2016 年度学校運営について> <u>P14 6-2. 主要資格・検定合格率について</u> 各科に特化した検定については、学科毎の目標設定を行っている。昼間部全員必修受験としてビジネス能力検定ジョブパスがある。エアライン科・語学集中科では TOEIC を複数回必修受験としており、〇〇点アップという目標を掲げている。エアライン科エアポートカーゴコースでは国際空港貨物取扱士（ディプロマ）について 1 回目の受験で全員合格した。英語力の需要に応えるべくホテル科でも TOEIC 対策を新たな科目として追加した。 <u>P16 ①卒業後の進路について</u> 留学生は卒業生就職率の目標を 30%としていたが、56.6%と大きく上回る結果となった。 <u>P17 6-4. 教育課程編成委員会について</u> 年 2 回開催しており、各分野の企業の方を委員とし、カリキュラム等について意見を頂戴している。全体会→分科会の流れをとることでより学科に則した意見交換ができる場を設けている。 <u>P28 6-5. 学校関係者評価委員会について</u> 16 年度委員会（15 年度評価）にて頂戴した意見についての対応状況の報告。 ・「教育活動」USJ 研修：前向きに検討中ではあるが、実現には至っていない。 ・「学修成果」卒業生管理：同窓会等検討しているが、単年では難しく設立等には至っていない。 ・「教育環境」危機管理：総務部と連携し学校担当者から職員へ指導する形で対応する予定。 <u>P37 7-1. SAM 活動及びクラブ活動について</u> SAM (School Activity Members) で生徒会のような役割を果たす学生組織。 <u>P38 7-2. カウンセリングについて</u> 学校内ではなく学外に相談室を設けておりプライバシーの保護がされている。事前予約制。 <u>P40 9. 国際連携について</u> 語学集中科で初めて台湾留学を行った。結果として中国語検定準 4 級の合格者が 15 年度 1 名に対し、16 年度 6 名（合格率 54.5%）と半数の学生が合格した。台湾からの留学生も受け入れており、今年度は 46 名受け入れた。				

【質疑応答】

船曳氏：P10 入学者数及び出身地について

②留学生の国籍について、中国が一番多いと思っていたがネパールやスリランカが多いことに驚いた。

学校：留学人口としては中国が多い。しかし、進学する場合には大学進学が圧倒的に多くなり、専門学校を選ばない。ネパール・スリランカの学生は勉強しながら働けること、卒業後に就職が出来るという観点から専門学校を選んでいるように思う。現在、国籍比率はベトナムが一番多い。

山口氏：①日本人の県内出身者が減ったようだが原因はあるのか。県内に競合校が出来たのか。

学校：まずブライダル単科校が千葉寄りの都内に出来た。観光分野については大学と競合していることが挙げられる。女性の大学進学率が上がったことや、他校を選択したことも考えられる。

学校：千葉県内の女性の大学進学が増えている。ホテル科については県内に競合はない。ブライダル科・エアライン科は県内に競合校がある。トラベル系は大学が競合として考えられる。

船曳氏：ブライダルマーケットの縮小もあり、求人マーケットも厳しい状況。専門式場は増えている。

小亀氏：留学生数が増加しているが、インバウンド需要に応じて学校が募集をしているのか。

学校：そうではない。日本語学校が増えており、卒業後の進路として専門学校を選ぶため募集が好調となっている。そういった背景から120名に定員を増やした。16年度は最終的に出願数289となり途中で募集を締め切った。総じて留学生マーケットは拡大している。

ネパールの学生は就職のチャンスを求める側面もあり入学を希望する学生が多い。ベトナムは日本企業の現地工場進出が増えたことで希望者が増加していると考えられる。

原田氏：入学者における学び直しの学生はどのくらいいるのか。

学校：ほとんどが高校卒業して入学するものが占めており、1~2%にも満たない。比較的夜間部は多いといえるが昼間部はほぼいない。都心部は既卒者も多いと聞いている。大学とのWスクール、昼間働き夜学ぶという選択も多い。

2. 2016年度自己評価

学校：16年度より質問項目を変更し、中村学園5校で統一した。

学校職員より2016年度自己評価について説明を行った。

〈2016年度自己評価について〉

(1) 教育理念・目標について

①学校関係者評価委員からの意見・質問
特になし

②今後の改善方策

学校から保護者への周知の方策として、学科毎の授業・検定・行事などの情報を定期的に発信するようにする。

(2) 学校運営について

①学校関係者評価委員からの意見・質問
特になし

②今後の改善方策

官庁への届出時期などを再確認し、各部署連携して適正な届出、学校運営を行う。

学生管理システムについては、当校にあった活用しやすいシステムを積極的に模索していく。

社会規範の遵守を含め、問題となりうる事項については危機管理プロジェクトの中で引き続き検討していく。

また職員・学生のSNS使用に関する注意喚起も行う。

(3) 教育活動について

①学校関係者評価委員からの意見・質問

船曳氏：研修は行われているのか。

学校：非常勤への研修は行われていないが、講師が学生の変化に合わせて授業運営方法をシフトしていく、教育向上の努力をしている。視覚に訴える授業や教科書だけでなくネットも駆使している。

船曳氏：昔ながらの方法を併せて授業運営にあたるべきと考える。

学校：常勤に対しては希望研修と学園全体の研修があるが、非常勤については実施していない。

これからの改善方策としては非常勤の授業見学等をもう少し実施していきたい。将来的には非常勤に対しても研修を行って行ければと考えている。

学校：専各協会主催の研修も常勤には行われている。

②今後の改善方策

本校に在学するすべての学生に対して企業実習制度を確立できるよう企業開拓に努める。

教育の質向上に向けて授業及び行事の見学を計画していく。

メール・SNSの取扱いの社内ルールを設ける。

(4) 学修成果について

①学校関係者評価委員からの意見・質問

学校：卒業生の状況把握については昨年度も確認いただいたが現状出来てない。

学校：企業にアンケートをとるなどして、企業評価を得ていきたいと考えている。

企業人事担当との交流の場を設けアンケートをとりたい。

船曳氏：卒業生にはいかに長く働いてもらえるかが大切だと考えている。私は入社からの記録を全てとっている。

小亀氏：検定の取得状況の一覧がありましたが、学習成果をあげる一番の方法として、資格取得や点数の目標

を定め、達成実感をもたらすことだと思う。

②今後の改善方策

学習成果を学外の方に見て頂けるよう行事の発表会等を検討する。

(5) 学生支援について

①学校関係者評価委員からの意見・質問

特になし

②今後の改善方策

就職活動の早期化に合わせた指導や面談を行う。

体調の悪い学生の対応として、一時的に休める環境を整える。

学校を選ぶポイントの一つとなっているクラブ活動については、一層の活性化のため案内や報告を学生にわかり

やすく伝えていく。

(6) 教育環境について

①学校関係者評価委員からの意見・質問

船曳氏：災害対策マニュアルはあるのか。

学校：東日本大震災後にハンディマニュアルを作成、全学生に配布している。毎年更新も行われている。

船曳氏：個人情報記録する箇所はあるのか。

学校：緊急時個人情報記録という欄があり、記入できるようになっている。

②今後の改善方策

安全・防災には十分な配慮がなされているが、より良い学習環境を提供するために老朽化した施設・設備のメン

テナンスを行っていく。

(7) 学生の受入れ募集について

①学校関係者評価委員からの意見・質問

特になし

②今後の改善方策

学生募集における教育成果は具体的に伝えているが、教育手法なども説明し、学ブイメージができるようにする。

(8) 教育の内部質保証システムについて

①学校関係者評価委員からの意見・質問

原田氏：第三者評価はどこが行ったのか。

学校：文科省の委託事業を日本ホテルスクールが受託し、モデル実証として評価を受けた。当校だけでなく、都内他1校が対象となった。

原田氏：内部監査は学校で監査役がいるのか。

学校：設けていない。

山口氏：当社では部署間で行う内部監査制度があり、会社で質問事項を作り、他部署に対して監査を行う。

改善点として挙げられたものについては次回までに改善するというもの。社長に対しても行っている。

学校：制度とするかは別としても、意見交換が行われることは有益と考える。

原田氏：規定が文書化されることは必要。しかし、作ること自体を仕事とするのではなく、周知し利用することが大切だ。

②今後の改善方策

文書管理規定の整備に努める。

更なる適正な運営のため、法律の専門家との契約を含め検討する。

(9) 財務について

①学校関係者評価委員からの意見・質問

特になし

②今後の改善方策

学生満足度の向上や問題の早期発見に努め中途防止策を強化する。

学科毎の予算実績を確認し、運営の効率向上を検討する。

留学生の学科と予算を分け、日本人の学科のみで収支が合うよう見直しを行う。

(10) 社会貢献・地域貢献について

①学校関係者評価委員からの意見・質問

特になし

②今後の改善方策

地域活性につながるカリキュラムや地域住民に見学頂ける学園祭を検討する。

(11) 国際交流について

①学校関係者評価委員からの意見・質問

項目 11-3 については③ほぼ適正→④適正に評価を変更。

学校：現在 5 校 6 事業本部体制で学園運営をしている。その中で留学生については退学者も少なく、適切な運営がなされているといえる。9 月の留学生スピーチコンテストについても是非見学に来てほしい。

小亀氏：おもてなし ICT 事業のオープニングセレモニーの際のモデルを留学生に依頼した。

有能な学生さんで大変ありがたく思う。

②今後の改善方策

様々な背景をもつ学生に対するきめ細やかな対応が出来るよう努める。

3. 学校関係者評価委員より意見・要望等

山口氏：専門学校生は即戦力という意味で需要が高い。当社に入社した卒業生は良い意味で打たれ強い方が多く、一人も辞めた人はいない。

船曳氏：ホテル業界は人材確保に悩んでいる。都内にキャリアを持っている人を取られている。留学生雇用、シニア層、女性の再雇用が大切。

原田氏：学校と支援センターの連携を深めていきたい。地域に対して学校の行っていることを公開して、声掛けしていくとよいと思う。

小亀氏：おもてなしダイバーシティ千葉市は良い取り組みが出来ている。

まちなかボランティア養成講座という千葉市の観光案内プログラムを千葉市民活動支援センターとともに計画した。会話の仕方や道案内の仕方など、街中で困っている人にどうアプローチするかを学ぶもの。

学生で興味のある方がいれば是非参加していただきたい。

進行原田氏が委員会を閉会した。

以上